



「ヒアリングチェックシート」を見ながら、自身や家族の「聞こえ」をセルフチェックする参加者。

第62回環境保健夏季大学開催

フレイル予防と防災を学ぶ 日帰りプログラムで200人参加

令和6年7月18日・19日に、RCC文化センター(広島市)を会場に、「第62回環境保健夏季大学(合同研修)」を開催しました。日帰り参加できる2日間のプログラムで、1日目は「フレイル予防」を、2日目は「防災・減災」をテーマに、県の政策の紹介や専門家による情報提供、体験型の分科会などのプログラムを企画し、延べ200人が参加しました。

1日目: 聞こえと社会参加を考える
はじめに、広島県健康福祉局健康づくり推進課の山下十喜課長から、「広島県の「健康」政策について」と題してお話いただきました。健康ひろしま21(第3次)の概要のほか、検診の受診、フレイル予防、「コミュニティで集う」「通いの場」などの取り組みの重要性などを確認しました。続いて、広島国際大学総合リハビリテーション学部リハビリテーション学科言語聴覚療法専攻特任教授の國末和也教授から、「聞こえと「コミュニティ活動」地域で生き生きと活動するために」と題して講演いただきました。

「加齢による難聴は、認知症の最も危険な因子である」と、聞き取る機能が衰えが、社会参加や「コミュニケーション」を遠ざけ、認知症機能を低下させてしまうことなどを学びました。併せて、話す側は、「口元を見る」「ジェスチャーを交える」「資料を示す」などの工夫ができること、聞く側は、「確かめながら聞く」「静かな場所へ移動する」「もう一度と頼む」など、双方が「聞こえ」を意識して「コミュニケーション」を図ることで、会話を楽しみ、活動の範囲が小さくならないように心がけることが重要であることを学びました。

その後は、「食べる」「運動」「聞く」を通じた社会参加の3つの分科会に分かれ、体験学習を行いました。「聞く」を通じた社会参加分科会では、トリーニング広島補聴器センターの協力で、実際に補聴器を使ってみるなど、聞こ

えを支援する道具についても学びました。

2日目: 水とトイレから公衆衛生を考える
(特非)ひろしまNPOセンターの増田勇希理事から、「能登半島地震から見えてきた水・トイレの課題」と題してご講演いただきました。



分科会では、簡易トイレの組み立てや設置を体験し、他のグループと工夫した点について意見交換をした。

水の課題については、上下水道の被害が多く、復旧に長い時間がかかっていることや、井戸が少なくなること、給水車やペットボトルの水を運ぶことも大変なことなどを、写真を交えて紹介されました。

またトイレの課題については、下水道が広域にわたって壊れたことで、多くの避難者に対応するトイレが圧倒的に足りない状況が紹介されました。液状化、断水、沈下や隆起によって公衆トイレが使用できず、マンホールトイレ

りず、汲み取りも間に合わない状況などが紹介されました。

非常用簡易トイレが配布されたのですが、不慣れや抵抗感などから凝固剤を多めに入れてしまうことで、凝固剤が足りなくなるなどの事例も紹介いただきました。

「持っているだけ、知っているだけではダメで、実際に使ってみることが重要です」と、今後の備えへの助言をいただきました。

分科会は、「災害時のトイレ事情を考える」

「水利用と防災井戸を考える」「防災食と感染症を考える」の3つに分かれて、交流体験を実施しました。

内容の多い研修となりましたが、参加者の満足度は高く、充実した研修となったことがアンケートから分かりました。

今後開催する専門研修「防災・減災コース」では、夏季大学の内容をさらに発展させた研修を実施しますので、積極的に参加いただき、地域の公衆衛生活動にお役立てください。

きんせんか 琴線歌

東南アジアのアブラヤシ農園で生産されるパーム油は、世界で最も多く生産・消費される植物油で、インスタント麺や冷凍食品などの食料品だけでなく、洗剤などの日用品、口紅などの化粧品など、スーパーマーケットで見られる約50%の商品に使用されています。一方、アフリカ原産の植物であるアブラヤシの植栽適地は赤道周辺の熱帯域になるため、パーム油生産のためのアブラヤシ農園の造成によって、多様な野生生物を育み、高いCO₂固定能を持った熱帯雨林や泥炭林が伐採されてきました。こうしたアブラヤシ農園の造成によって生じる環境問題は、RSPOに代表されるパーム油認証制度などを通じて一定の改善が図られているものの、認証基準化されていない問題も多く残っています。

パーム油と気候変動

国際社会が解決すべき課題と言え、国際農林水産業研究センターでは農作物残渣の農園内放置に起因した温室効果ガスの発生量の観測や、農作物残渣の有効利用に向けた技術開発を通じて、アブラヤシ農園から排出される温室効果ガスの削減に取り組んでいます。

(国際農林水産業研究センター 主任研究員 近藤 俊明)



一般財団法人 ~みんなの生命をまもりつづけたい~
広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)
TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520

基本理念

みんなの生命(いのち)をまもりつづけたい。
私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、持続可能な社会の発展に貢献します。

かんぽきよう 検索

